

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想

令和8（2026）年3月

桜井市

目 次

1	構想策定の背景と目的	1
	(1) 文化財保存・活用に係る国の動向	1
	(2) 桜井市の状況	1
	(3) 構想策定にむけて	1
	(4) 本構想の位置づけ	2
2	纏向遺跡周辺地区の概要	3
	(1) 地区の現況	3
	(2) 住民意向	11
	(3) 来訪者意向	13
	(4) 事業者意向	15
	(5) 史跡を含む歴史遺産等を取り巻く動向	16
	(6) 市民活動の動き	19
3	纏向遺跡周辺地区の現状と課題	20
4	纏向遺跡周辺地区のまちの将来像と基本目標	24
5	纏向遺跡周辺地区まちづくりで行う取組	26
6	纏向遺跡周辺地区まちづくり構想図	31
7	実現に向けた取組	32
	(1) 多様な主体の連携によるまちづくりの推進	32
	(2) 今後のスケジュール	32

1 構想策定の背景と目的

(1) 文化財保存・活用に係る国の動向

昭和 25 年に文化財保護法が制定されて以降、社会の変化に伴い、様々な文化財の指定・登録制度、保存制度の創設が進み、文化財保護が行われている。

一方、指定文化財以外は保全の手立てがなく、様々な未指定の歴史遺産の喪失等が問題視され、地域の歴史遺産を広く対象とした歴史文化基本構想が制度化された。さらには平成 30 年の文化財保護法の改正に伴い、文化財をより「活用」することが重視され、都道府県の文化財保存活用大綱の策定、市町村による文化財保存活用地域計画の策定が制度化され、地域も巻き込みながら、文化財の保存・活用の取組が推進されつつある。

(2) 桜井市の状況

本市は奈良盆地の東南部に位置し、平野部中央を大和川が東西方向に横断し、周囲を青垣山に例えられる山々に囲まれ、自然豊かな環境を有している。

本市は「やまと」という日本の国号の由来となった三輪山を中心とする地域で「国のふるさと」と称される場所であり、その中で、JR 巻向駅の周辺は、纏向遺跡が広がり交通の要衝であった。

市内には数多くの遺跡や古墳が残されており、その中でも纏向遺跡・纏向古墳群は前方後円墳の成立過程、日本の国家形成過程と当時の社会状況を知る上で極めて重要なものと認識されている。

第 6 次桜井市総合計画においては、「地域資源を活かし賑わいを育むまちづくり」が設定され、交流人口や関係人口の増大により地域経済の好循環をもたらすことが目標に掲げられており、本市では纏向遺跡・纏向古墳群の保護、及びその価値を広く啓発していくため「適切な管理保存・全容解明」「遺跡の公開と活用推進」に取り組んでいる。

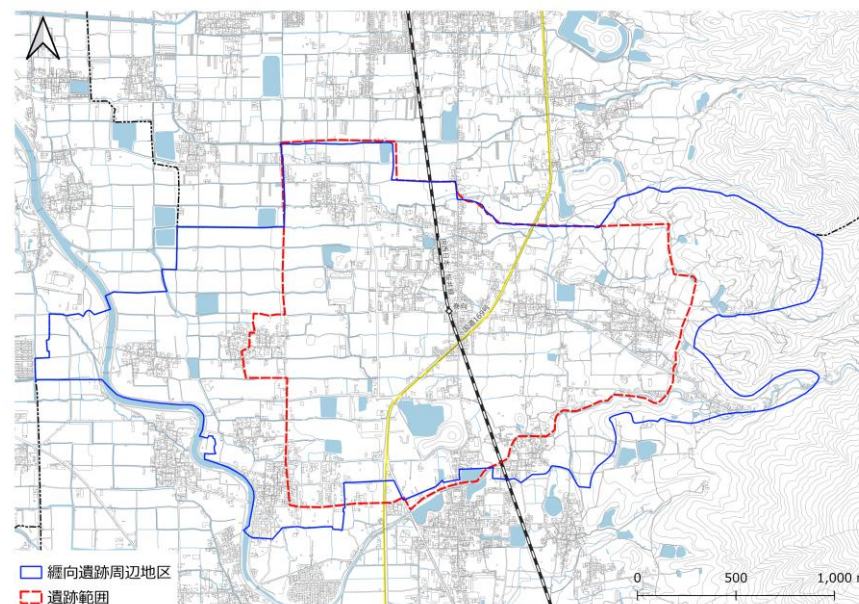
(3) 構想策定にむけて

纏向遺跡周辺地区では人口減少が進行し、地域活力の低下が懸念されており、文化財を活用した地域振興・観光振興を通じて、地元住民の郷土への誇りと愛着を醸成しつつ、交流人口や関係人口の拡大を図ることも重要である。

また、JR 巻向駅前広場や周辺インフラ整備など、来訪者にとって利便性の高い環境を整えるとともに、地域内の回遊性向上や経済的な循環を促進するまちづくりの方向性を検討することが必要である。

そこで、本市では、国史跡である纏向遺跡および纏向古墳群の歴史的価値を将来に継承し、地域の新たな活力の創出につなげることを目的として、「纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想」を策定することとした。

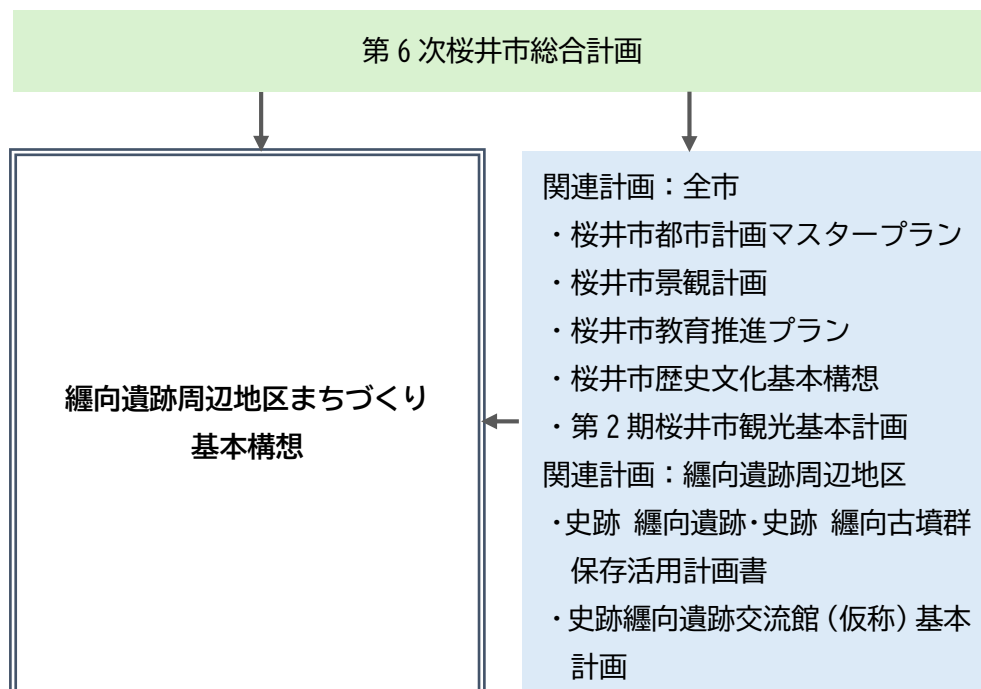
対象範囲



※纏向遺跡周辺地区は、纏向遺跡を内包する以下の大字の範囲を指す。
穴師、巻野内、辻、草川、太田、大豆越、東田、江包、豊前、豊田、箸中

(4) 本構想の位置づけ

本構想は、桜井市の最上位計画となる「第6次桜井市総合計画」に即し、関連する分野別計画と連携・整合したまちづくり構想である。



●第6次桜井市総合計画

【将来の都市像】

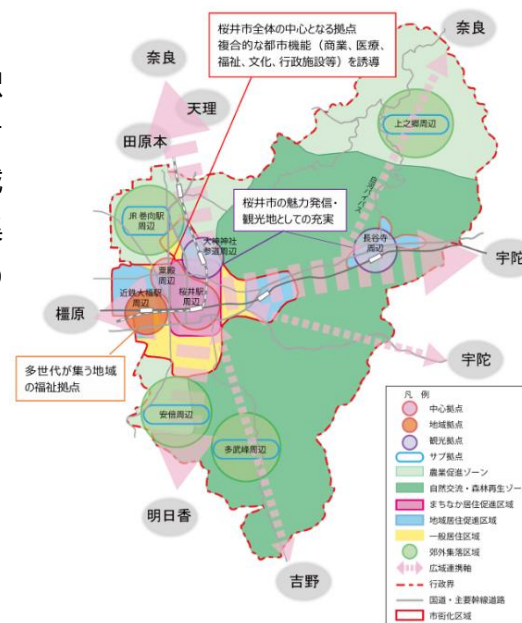
はじまりの地から未来へ
歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井

【各分野が目指すまちの将来の姿】

- (1) 桜井の個性を活かした活力あるまち【観光・産業】
- (2) 健やかに暮らせるまち【健康・福祉】
- (3) 様々な人々が共存するまち【教育・生涯学習・交流】
- (4) 環境共生のまち【環境】
- (5) 心豊かに暮らせるまち【都市】
- (6) 安全・安心に暮らせるまち【安全・安心】

【纏向遺跡周辺地区について】

将来都市構造では、JR 巻向駅周辺は「サブ拠点」に位置付けられ、「自然・歴史資産等の地域特性を活かしつつ、各地域の集会所等を交流拠点とし、既存の地域コミュニティ機能の維持・強化に努める」とされている。



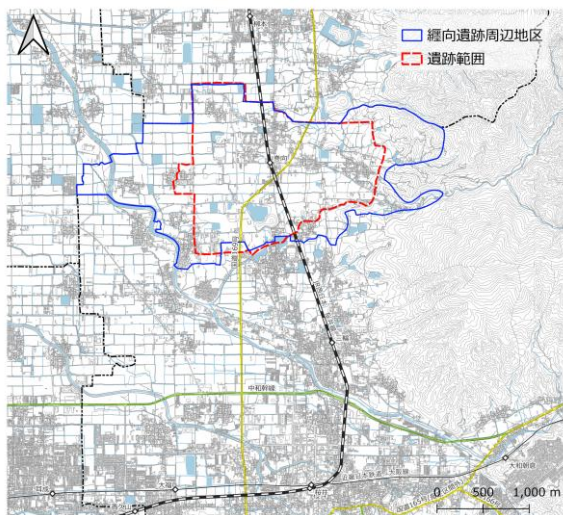
2 纏向遺跡周辺地区の概要

(1) 地区の現況

①地区の概要

- ・ 纏向遺跡周辺地区は、JR 桜井駅から約5分の JR 巻向駅の周辺に位置し、三輪山の北西一帯に広がる纏向遺跡を中心とした地区である。
- ・ 纏向遺跡は、3 世紀初めから 4 世紀前半にかけての遺跡で近年の学術調査や研究の成果によりヤマト王権最初の「宮都」と目されるだけではなく、九州の諸遺跡群に対する邪馬台国東の候補地としても特に重要視される存在となっている。また、纏向遺跡・纏向古墳群は、前方後円墳の成立過程、さらには我が国における国家の形成過程および当時の社会の状況を知るうえで重要なものとされ、史跡に指定されている。
- ・ 纏向遺跡周辺地区に関連する計画として、纏向遺跡・史跡・古墳群の保全や整備活用に向けた方向性を示す「史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群 保存活用計画書」と、纏向遺跡に関するガイダンス機能を有した拠点施設の計画である「史跡纏向遺跡交流館(仮称)基本計画」が策定されている。

位置図



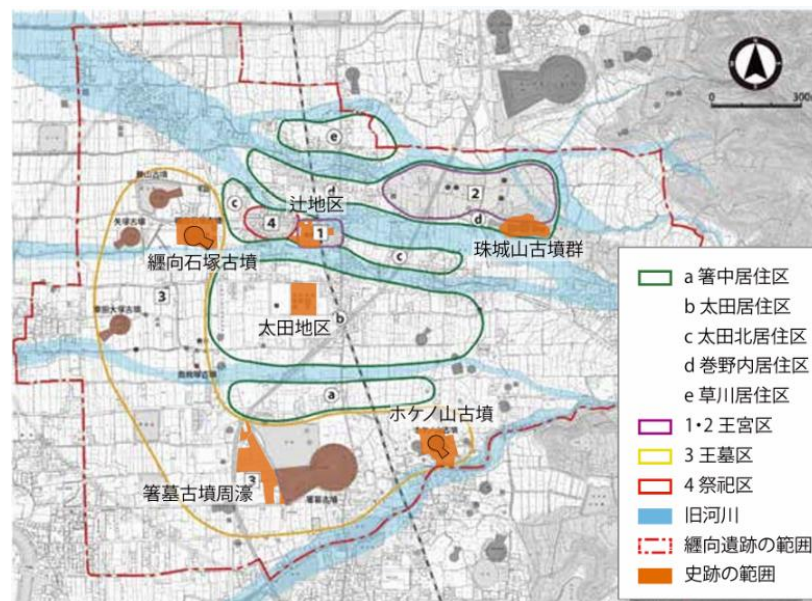
〈参考〉史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群 保存活用計画書

- ・ 纏向遺跡・史跡・古墳群の歴史的価値と構成要素を明らかにしたうえで、遺跡の保全や整備活用を行い、次世代へ継承するとともに、市民が郷土への誇りを育み、地域の活性化に寄与するため、史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群 保存活用計画書を策定している。

【対象範囲】

- ・ 周辺に未指定の古墳や調査の及んでいないエリアも存在することから、調査の進展に伴い、今後対象地区の拡大が見込まれる。そのため、史跡に指定された範囲だけではなく、纏向遺跡全域及び纏向古墳群全てを対象範囲としている。

纏向遺跡の構成



【遺跡の保存と管理の方向性】

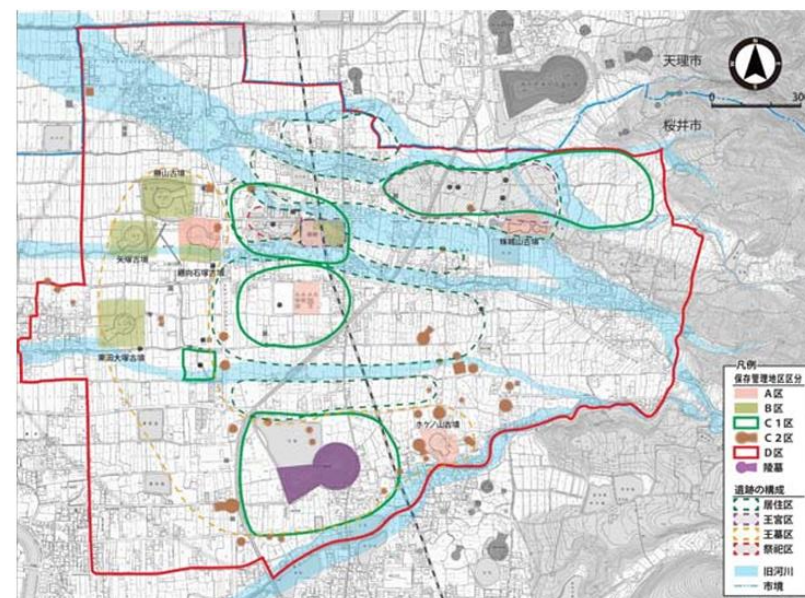
- ・ 纏向遺跡および纏向古墳群の全容解明のため、継続的な調査を行う。
- ・ 今後対象とすべき候補地域を抽出・区分。遺構の重要性や市街化の度合い、土地の利用状況など、候補地域の状況に応じた計画の策定を行う。
- ・ 地域住民の参画を含めた保護活動を推進し、情報の発信に努める。

【保存管理の区分】

- ・ 遺跡全域を遺構の重要度に応じて A～D の 4 つの地区に区分し、それぞれに対応した保存管理の基準を設定している。
- ・ 遺構の保護と適切な公開・活用のため、用地の公有化を推進しており、特に、現在未指定の B 区の追加指定が急務とされている。

地区	区分の概要	設定済みの地区
A 区	史跡指定地。原則として現状変更は認められません。	①辻地区 ②太田地区 ③纏向石塚古墳 ④ホケノ山古墳 ⑤珠城山古墳
B 区	早急に史跡指定を目指す地区。開発計画の見直しや中止を求めます。	①辻地区 ②纏向石塚古墳 ③勝山古墳 ④矢塚古墳 ⑤東田大塚古墳
C 区	重要遺構の存在が推定されるが範囲が未確認の地区。調査により重要性が確認された場合は保存協議を行います。	①巻野内地区 ②辻地区 ③太田地区 ④箸墓古墳地区 ⑤南飛塚古墳地区 ⑥小規模古墳群
D 区	上記以外の周知の遺跡範囲。調査の上で景観に配慮しつつ開発を認める場合があります。	

纏向遺跡の構成と保存管理地区・予定区分



【遺跡の活用】

- ・ 纏向遺跡の活用に向けて、以下の方向性及び活用方法が示されている。

●遺跡の活用の方向性

1. 「ヤマト王権成立の地」をアピール
2. 纏向遺跡の全容を公開
3. 教育的活用
4. 地域コミュニティと活用
5. 「歴史文化の保全」と「景観保全と活用」
6. 観光的活用

●遺跡の活用方法

1. 拠点施設の設置
2. サテライトと回遊ルート
3. 市民との協働
4. 情報発信

〈参考〉史跡纏向遺跡交流館（仮称）基本計画

- ・ 纏向遺跡に関する調査・研究を推進し、「古代国家成立の地」のフィールドミュージアムとして周辺の景観や環境の保全を検討するとともに、見学者や地元住民が纏向遺跡をわかりやすく、楽しく学べるように、ガイダンス機能を有した拠点施設「史跡纏向遺跡交流館（仮称）」の設置に向けた計画を策定している。

【交流館の機能】

- ①遺跡の総合的なガイダンス機能
- ②体験学習や座学ができる学習機能
- ③ボランティア活動拠点機能
- ④地域住民の交流拠点機能
- ⑤便益機能
- ⑥纏向学研究センター機能
- ⑦埋蔵文化財センターを補完する機能
- ⑧保管機能
- ⑨管理機能

【展示の基本方針】

基本方針① 価値を正確に伝える展示

…調査研究に基づき、学術的な検討を経た遺跡の価値を正確に伝える。

基本方針② 発展する展示

…日々更新されていく纏向遺跡の調査研究成果を提供できるように、展示内容や展示物を更新する必要がある。柔軟な変更にも対応できるような展示構成や構造にする。

基本方針③ わかりやすい展示

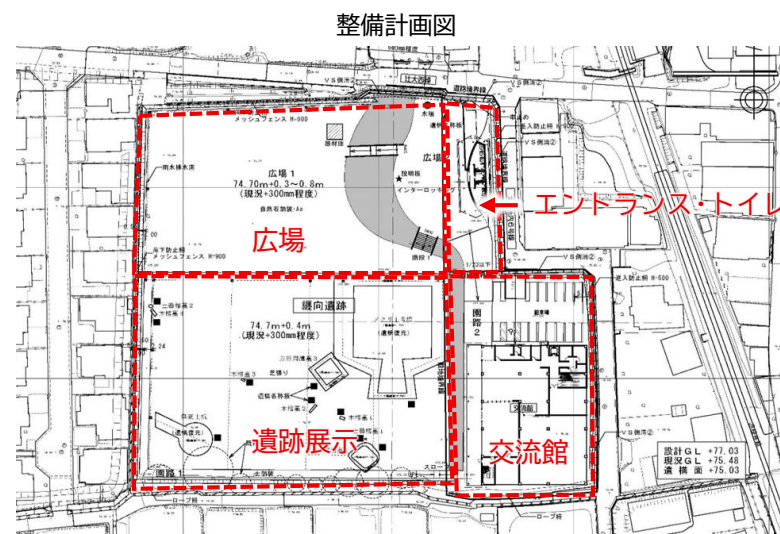
…遺物などを用いた直接的な展示を行うことを主眼とせず、パネル、写真や模型を多用して、当時の時代背景のストーリーなどを提示する。また、当時の様子がイメージしやすいデジタル映像を作成し、AR・VRなどの技術を使用した、より臨場感のあるわかりやすい展示とする。

基本方針④ めぐる纏向遺跡

…交流館を拠点とした纏向遺跡の周遊をいざなう展示とする。例えば、エントランスホールで、大きな地図により纏向遺跡の全体像を示すなど、纏向遺跡全体を巡るための親切な情報を提供する。

基本方針⑤ 学ぶ交流館

…纏向遺跡に興味を持つ愛好家だけではなく、興味関心を持ち始めた見学者が、能動的に纏向遺跡を学べる場とする。例えば、情報コーナーは「見学者自らが纏向遺跡の情報を学べるような場」とし、体験学習室は「ワークショップや講座等を通して纏向遺跡を楽しく学べるような場」とする。

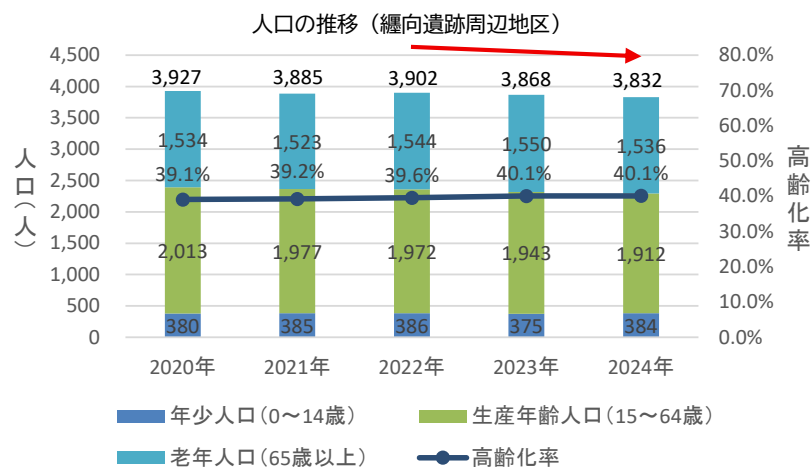


イメージパース

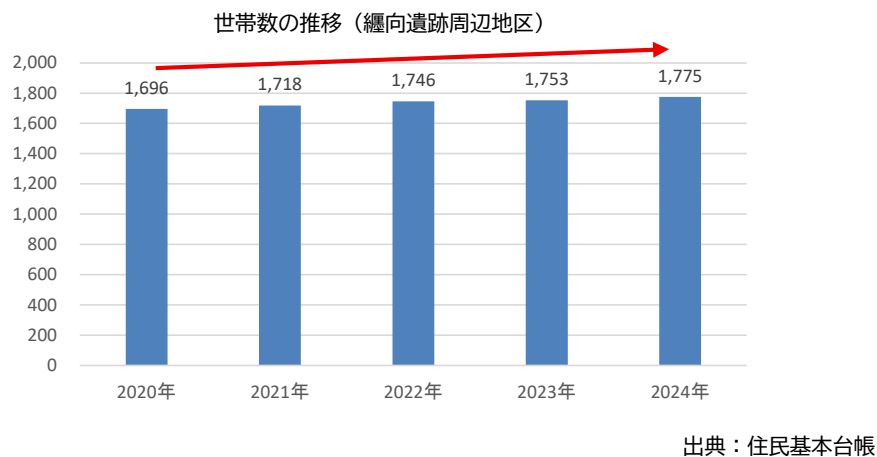


②地区の人口、世帯数

- 人口は約 3,900 人で微減傾向にあり、高齢化率は 40%程度と桜井市平均(32.8%、2024 年)と比べても高い水準にある。



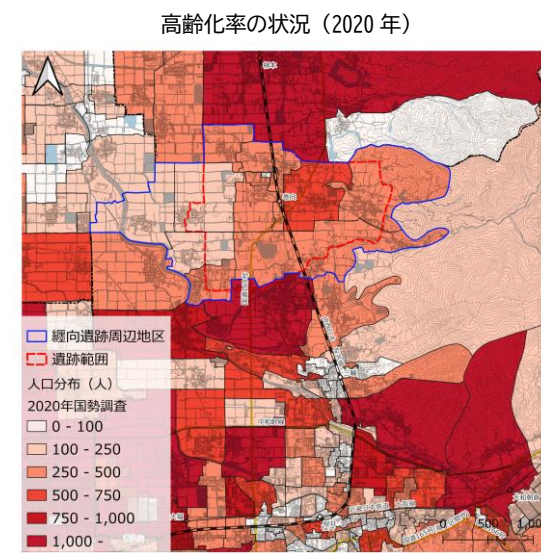
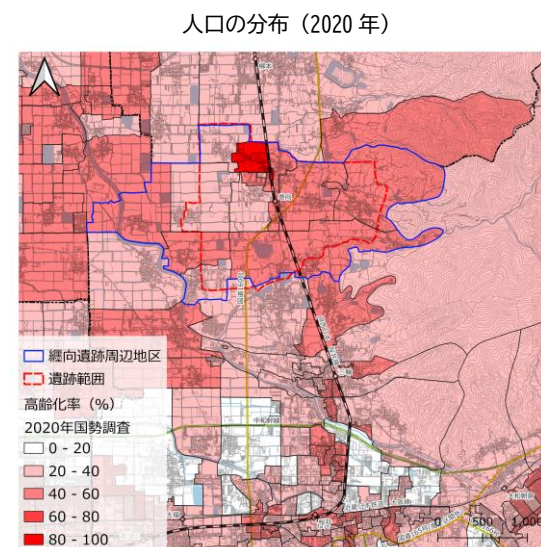
- 世帯数は約 1,800 世帯で、増加傾向にある。



※纏向遺跡周辺地区は、纏向遺跡を内包する以下の大字の範囲を指す。
穴師、巻野内、辻、草川、太田、大豆越、東田、江包、豊前、豊田、箸中

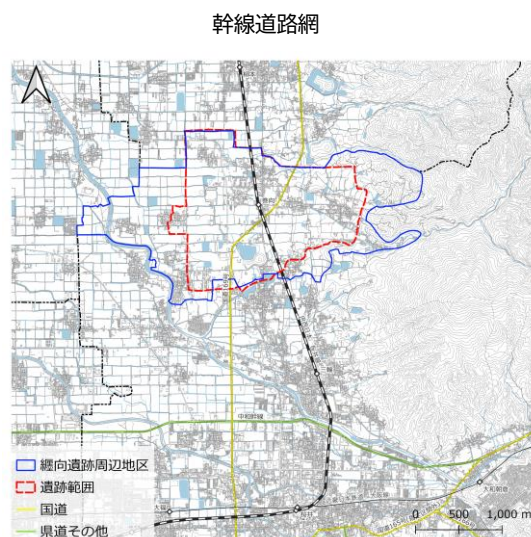
③人口の分布

- 高齢化率は 40%を超えている地域が多く、市全体の高齢化よりも高く高齢化が進んでいる。



④都市基盤の状況

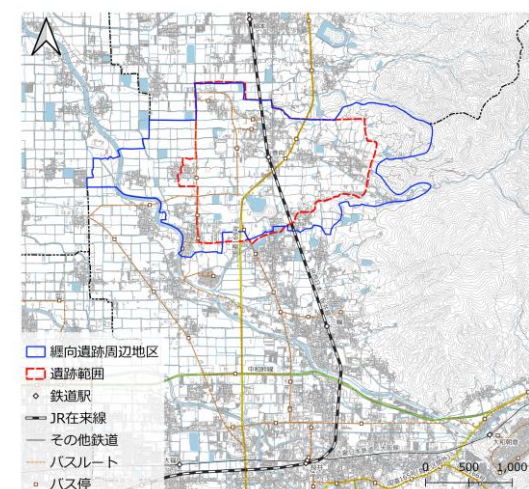
- ・ 纏向遺跡周辺地区の南北を鉄道と並行する形で国道が整備されている。



出典：国土数値情報

- ・ 国道 169 号の一部や県道大和高田桜井線では、道路の混雑度が 1.0 を超えており、昼間 12 時間のうち混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間ある状況である。また、国道 169 号と 169 号バイパス道路の合流地点が、奈良県渋滞対策協議会で主要渋滞箇所指定されている。

公共交通路線網



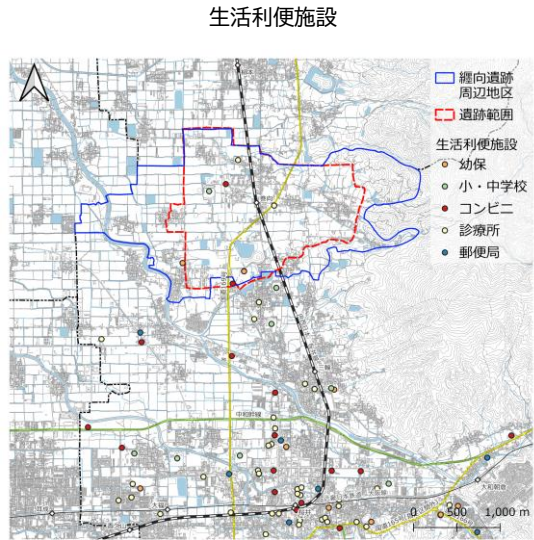
出典：国土数値情報



出典：令和3年度一般交通量調査

⑤都市機能・地域資源

- ・ 纏向遺跡周辺地区には、幼稚園と保育所が各1園、小学校が1校、コンビニが1件、診療所が2件立地している。



出典：(幼稚園・保育所、小中学校)桜井市 HP、(コンビニ、郵便局)各 HP、(診療所)桜井地区医師会 HP

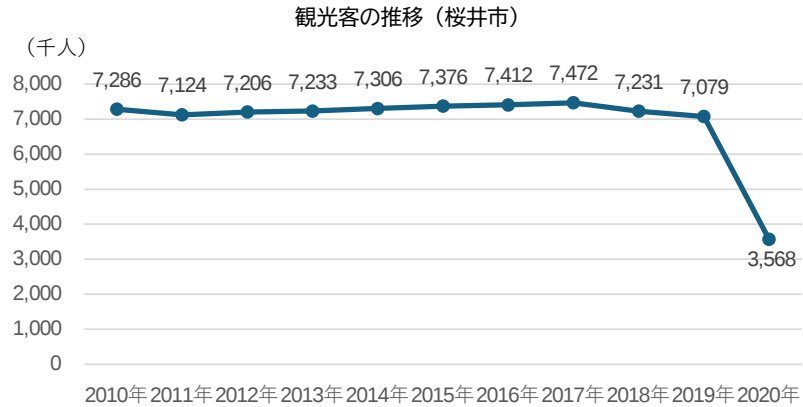
- ・ 纏向古墳群、纏向遺跡、箸墓古墳周濠、珠城山古墳が史跡として指定されている。

指定文化財、登録文化財（纏向遺跡周辺地区）

区分	名称	所在地	時代区分
史跡	珠城山古墳	穴師	古墳
史跡	纏向古墳群	太田・箸中	古墳
史跡	纏向遺跡	辻・太田	弥生～古墳
史跡	箸墓古墳周濠	箸中	古墳
登録有形文化財	堀井家住宅主屋	穴師1-1	昭和
登録有形文化財	堀井家住宅離れ	穴師1-1	江戸末期
登録有形文化財	堀井家住宅長屋門	穴師1-1	昭和
登録有形文化財	堀井家住宅粉挽小屋	穴師1-1	江戸末期
登録有形文化財	堀井家住宅米蔵	穴師1-1	江戸末期
登録有形文化財	堀井家住宅堀	穴師1-1	昭和
県有形文化財	木造薬師如来坐像 木造釈迦如来坐像 木造薬師如来坐像	東田	室町

⑥観光客の状況

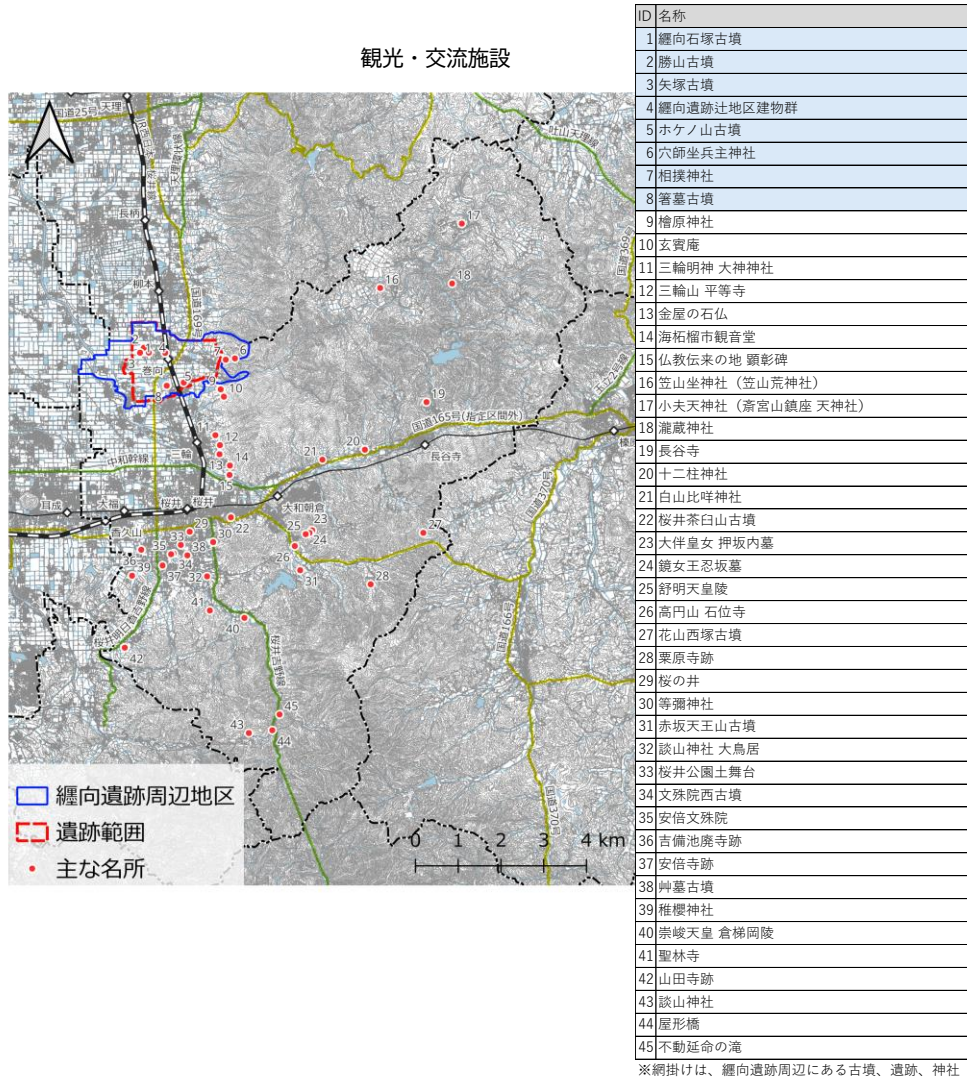
- ・ 観光客数は2019年まで年間約700万人で推移している。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で約350万人に落ち込んでいる。



出典：第2期 桜井市観光基本計画

⑦観光資源

- ・ 纏向遺跡周辺地区には古墳、遺跡、神社が数多く点在している。桜井市内には大神神社、長谷寺をはじめ数多くの神社仏閣や古墳などがあり、神社仏閣において、年間を通じて様々な行事が行われている。



出典：桜井市観光パンフレット

観光資源における年間イベント・行事（桜井市）

時期	名称	場所
4月下旬～5月上旬	春のぼたん	長谷寺
3/25～3/26	文殊お会式	安倍文殊院
3月下旬	椿まつり	玉列神社
4/8～4/10	春の大神祭	大神神社他
4月9日	若宮神幸祭	若宮社
4月第2日曜日	神幸祭	談山神社
4月17日	大般若会	音羽山観音寺
4月18日	鎮花祭	大神神社・狹井神社
4月28日	春の大祭	笠山三宝荒神社
4月29日	春の蹴鞠祭	談山神社
6月16日	ささゆり奉獻神事	大神神社他
6月25日	御田植祭	大神神社
7月30日～31日	おんぱら祭	綱越神社
9月28日	大祭	笠山三宝荒神社
10月第2日曜日	嘉吉祭	談山神社
10月24日	秋の大神祭	大神神社他
11月3日	秋の蹴鞠祭	談山神社
11月14日	酒まつり	大神神社
12月第1日曜日	猪の子暴れ祭り	高田地区
1月1日	繞道祭	大神神社
1月15日	大とんど	大神神社
1月28日	笠荒神大祭	笠山三宝荒神社
2月3日	節分祭	大神神社
2月3日	節分大黒天祭	長谷寺
2月3日	節分銭ぶつけ厄払い	安倍文殊院
2月5日	卜定祭	大神神社
2月5日～7日	三輪の初えびす	三輪恵比須神社
2月6日	おんだ祭	大神神社
2月11日	お綱祭り	素盞鳴神社ほか
2月14日	だだおし	長谷寺

出典：桜井市観光協会 HP

⑧JR 巻向駅付近の状況



※JR 巻向駅付近とは、概ね駅から半径 500m の範囲を指す

(2) 住民意向

①地域住民の意向（住民アンケートの実施）

次の方法でアンケートを実施し、纏向遺跡周辺地区の問題点やまちづくりに対する意向等を把握した。

調査対象	穴師、巻野内、辻、纏向団地、雇用促進住宅、草川、太田、大豆越、東田、江包、豊前、豊田、箸中 1,787 世帯（令和7年7月31日現在）	調査方法	調査期間内に、紙の調査票を郵送配布・郵送回収、およびオンラインアンケートサイトを利用して調査を実施
調査期間	令和7年9月16日（火）～9月30日（火）	回収状況	回収数 913（内訳 用紙：793、WEB：120） 回収率 51.1%

| 定住性が高く、夫婦のみ・単身世帯が多い地域特性

- 回答者は、「男性」が多く、さらに高齢者が中心で「60歳代以上」が約7割を占めている。
- 居住年数では「20年以上」が74.1%と多数を占め、長く地域に住み続けている人が多く、定住性が高い地域特性がうかがえる。
- 世帯構成では、「夫婦のみ」「単身」が多く、子育て世帯の割合は少ない。

| 住みごこの評価は高いが、交通環境や商業環境に対しては低い

- 住みごこのについては、肯定的な意見（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）が約8割を占め、全体的に満足している傾向がある。
- 「治安・安全」や「医療・福祉」については、比較的満足している意見が多い一方、「交通の便」や「買い物の利便性」に対しては不便と感じる割合が高くなっている。特に「公共交通の充実」や「買い物環境の改善」を求める声が多く、生活利便性の確保が重要な課題と考えられる。

| 纏向遺跡などの歴史遺産は大切にすべきと認識

- 多くの人が纏向遺跡を「地域の誇り」と捉え、「大切にすべき」と回答している。一方、「身近に感じる」や「興味がある」とする割合はやや低く、特に若年層では関心の低さが見受けられることから、歴史遺産を生活や学びのなかで身近に感じられるような仕組づくりが求められる。

| 歴史を活かした地域の活性化に期待

- 遺跡の保全や発信に賛同する意見が多く、「歴史を活かした地域の活性化」を期待する傾向がうかがえる。
- 観光振興への期待が高い一方、「交通アクセスの改善」や「住民が参加できる取組」など、日常生活との関係性を重視する声も多く寄せられている。

| 地域活動やボランティア活動の充実の可能性

- 地域活動やボランティアへの参加経験は、半数以上が「ない」と回答しているが、「環境美化」や「地域活性化」などには一定の関心が示されている。
- 今後は、関心層を活かしながら、無理なく参加できる活動や世代を超えた交流の機会を設けることが必要であると考えられる。

②児童・生徒の意向（小中学生アンケートの実施）

次の方法でアンケートを実施し、子どもの視点からの纏向遺跡周辺地区の問題点やまちづくりに対する意向等を把握した。

調査対象	纏向遺跡周辺地区内に学区を有する小・中学校の児童・生徒のうち 市立纏向小学校5年生、6年生 計55人 市立大三輪中学校1年生、2年生、3年生 計193人 合計248人	調査方法	調査期間内に、各学校の教員を通じて調査対象にアンケートサイトの アドレス及び二次元コードを記載した案内文を配布し、オンライン上 で回答・回収
調査期間	令和7年9月16日（火）～9月30日（火）	回収状況	回収数 168（内訳 小学生：52、中学生：116） 回収率 67.7%

| 地域に対する高い愛着

- 居住地域については、肯定的な意見（「好き」または「どちらかといえば好き」の合計）が約9割を占めており、全体的に地域に対して愛着を持っているといえる。
- 居住地域のよいところとしては、身近な人間関係のほか、「豊かな自然や歴史・文化を有する環境」の割合が高くなっている。

| 交通環境や商業環境、公園・緑地についての問題

- 居住地域のもっとよくしていくこととして、「商業環境の改善」や「公共交通の充実」の割合が高くなっており、生活利便性の確保が子ども達にとっても重要な課題であると考えられる。
- また、よいところとして「公園や遊ぶ場所があること」が比較的高く評価されている一方で、もっとよくしていくことにおいても「公園・緑地をつくってほしい」との声があることから、公園・緑地や遊ぶ場所について、子ども達のニーズにあった質・量の充実が必要と考えられる。

| 纏向遺跡などの歴史遺産は大切にすべきと認識

- 多くの子どもが纏向遺跡を「地域の自慢」に思い、「大切にすべきもの」と捉え、「市外の人にも知ってほしい」と考えている。
- 一方で、纏向遺跡に「興味がある」と回答した割合は約3割にとどまっており、関心の低さが見受けられることから、生活や学びのなかで、これらの歴史遺産について興味関心を高める取組が求められる。

| 歴史遺産の保全・活用と観光振興に期待

- 遺跡やそれらを取り巻く風景・自然を大切にすることについて賛同する意見が多く、いまある歴史遺産や自然などに恵まれた環境の保全・活用を期待していることがうかがえる。
- また、観光資源の創出や市外からの集客に賛同する意見も多く、観光振興の取組が期待されているといえる。

(3) 来訪者意向

①関西都市圏居住者の意向（インターネットアンケートの実施）

次の方法でアンケートを実施し、桜井市や纏向遺跡の認知度、周辺自治体を含む来訪状況、纏向遺跡周辺地区への期待度やその内容等を把握した。

調査対象	㈱NTT ドコモ「プレミアパネル」登録者（約 700 万人）のうち、端末情報から関西都市圏（京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県）内に居住の方を回答者として抽出	調査方法	㈱NTT ドコモ「プレミアパネル」のインターネットアンケートサービスを利用して、調査を実施
調査期間	令和 7 年 10 月 6 日（月）～10 月 14 日（火）	回収状況	3,003（「20 代から 70 代以上まで 10 歳刻みの 6 区分」×「男女の 2 区分」の 12 区分で均等に回収）

| 桜井市の来訪度は周辺自治体に比べて低め

- 桜井市、天理市、橿原市、宇陀市、田原本町、明日香村（以下、当該エリア）の認知度は 6 割強となっており、そのうち実際に当該エリアに訪れたことがある方は 7 割以上を占めている。
- 当該エリア訪問時に訪れた自治体としては、「橿原市（57.6%）」が最も多く、次いで「天理市（53.0%）」となっており、「桜井市」への訪問は 4 割以下（38.9%）にとどまっている。
- 纏向遺跡の認知度は 3 割強で、実際に纏向遺跡に訪れたことがある方は 1 割以下となっている。

| 現状の来訪者像は、歴史や自然を求めて家族と日帰り観光

- 当該エリアに訪れたことがある方の 9 割以上は日帰りでの訪問となっている。
- 訪問した際の同行者は「家族・親族（47.6%）」が最も多い。
- 訪問目的は、半数以上が「歴史・文化」を挙げており、「自然景観」や「まちあるき・散策」も比較的多い。
- 当該エリア訪問時の立ち寄り場所としては、「橿原神宮」や「石舞台古墳」に次いで、桜井市の「大神神社」や「長谷寺」が上位にあがっている。

| 纏向遺跡も今後の観光資源として期待

- 纏向遺跡は、当該エリア内に位置する主な観光資源に比べると認知度・来訪意向ともに高く、すでに一定の集客を得ている「橿原神宮」、「大神神社」、「長谷寺」等と同等の評価となっている。来訪意向は、特に高く評価されていることから、今後、纏向遺跡周辺地区の整備を契機に、来訪者の増加も期待される。

| 体験型や学べる活動プログラムに対する高いニーズ

- 纏向遺跡周辺地区に求める施設や機能などについては、「古代食の再現メニューを提供するカフェ（33.2%）」を回答された方の割合が最も多くなっている。次いで、「復元住居や古墳の実物大模型の展示」、「ガイド付きウォークツアー（遺跡周辺）」、「遺跡発掘体験（模擬発掘）」となっており、歴史を体験できるものやその場で学べる活動に対するニーズがうかがえる。
- 特に、「古代食の再現メニューを提供するカフェ」については、同様の質問を行った住民アンケートでは上位に挙がっていなかった回答であり、来訪者の視点では、飲食機能に対するニーズもあると想定される。

②纏向遺跡に興味関心のある層の意向（イベントアンケートの実施）

次の方法でアンケートを実施し、桜井市や纏向遺跡の認知度、周辺自治体を含む来訪状況、纏向遺跡周辺地区への期待度やその内容等を把握した。

調査対象	令和7年10月25日に開催した纏向学研究センター東京フォーラム来場者 850 名	調査方法	纏向学研究センター東京フォーラム来場者にアンケートサイトのアドレス及び二次元コードを記載した案内文を配布し、オンライン上で回答・回収
調査期間	令和7年10月25日（土）～10月26日（日）	回収状況	回収数 107 回収率 12.6%

※設問内容は（3）①インターネットアンケートと同じ

| 桜井市は歴史・考古学ファンに人気

- 桜井市、天理市、橿原市、宇陀市、田原本町、明日香村（以下、当該エリア）訪問時に訪れた自治体としては、インターネットアンケートと同様、橿原市（82.8%）が最も多くなっているが、次いで桜井市が78.8%と続き、多くの歴史・考古学ファンが本市に来訪していることがうかがえる。
- また、実際に纏向遺跡を訪れたことがある方は57.9%と半数を超えている。

| 現状の来訪者像は、歴史や自然を求めてひとりで・宿泊を伴う旅行

- 回答者のうち9割以上で当該エリアへの訪問経験があり、そのうち8割以上が宿泊を伴う来訪となっている。
- 訪問した際の同行者は「ひとり（60.2%）」が最も多い。
- 訪問目的は、ほぼ100%の方が「歴史・文化」を挙げており、「まちあるき・散策」や「自然景観」も比較的多い。
- 当該エリア訪問時の立ち寄り場所としては、桜井市の「大神神社」や「纏向遺跡」、「山の辺の道」が上位にあがっている。

| 纏向遺跡は歴史・考古学ファンにとって来訪目的となる重要な資源

- 纏向遺跡は、当該エリア内に位置する主な観光資源に比べると認知度・来訪意向とも高く、すでに観光資源として認知されている「橿原神宮」、「大神神社」、「長谷寺」を上回る評価となっている。纏向遺跡は、歴史・考古学ファンにとって、桜井市への来訪目的となり得る重要な資源であるといえる。
- 併せて、インターネットアンケートの結果とは異なり、市内の「桜井市立埋蔵文化財センター」や「山の辺の道」への来訪意向が高く評価されている。歴史・考古学ファンに訴求するコンテンツとして、今後、これらの施設や資源と連携することが考えられる。

| 歴史を存分に体感できる体験型や学べる活動プログラムに対する高いニーズ

- 纏向遺跡周辺地区に求める施設や機能などについては、「復元住居や古墳の実物大模型の展示（60.7%）」を回答された方の割合が最も多く、次いで、「ガイド付きウォークツアー（遺跡周辺）」、「地域の歴史とつながる展示（44.9%）」となっており、歴史を体験できるものやその場で学べる活動に対するニーズがうかがえる。
- インターネットアンケートと比較すると、「地域の歴史とつながる展示」の順位が高く、歴史・考古学ファンにとって、遺跡だけでなく地域の歴史も来訪目的となる重要なコンテンツとなり得るといえる。

(4) 事業者意向

纏向遺跡周辺地区まちづくりでは、施設運営や観光振興において事業者の参画や協業が期待されることから、今後、参画が想定される事業者や関連する業種の事業者を対象に、現在の取組状況や纏向遺跡周辺地区まちづくりに対する考え等についてヒアリング調査を実施した。

【ヒアリング対象】

●桜井市観光協会 ●鉄道事業者 ●宿泊業事業者 ●旅行会社 ●類似施設指定管理者

【主なご意見】

■桜井市や纏向遺跡周辺地区の評価

- ・市内では、社寺や古墳・遺跡を目的とした来訪者が多い。特に、ヤマト王権成立期の史跡に関心をもつ「古墳ファン」が多く、関東方面からの来訪も見られ、古墳は重要なコンテンツである。
- ・春秋を中心に花と社寺の観光需要が高い。来訪者は高年齢層・首都圏の観光客が多く、国内若年層や訪日外国人観光客の取り込みは課題である。

■現在の取組状況

- ・首都圏発着・現地発着のツアーを企画し、好評を得ている。
- ・奈良県等と協働で、県中南部エリアへの周遊・滞在を促す官民地域連携のプロモーションを展開している。JR 桜井線の利用者増にも貢献している。
- ・市・商工会・観光協会の連携により「桜井市おもてなし仕組みづくり協議会」を設立し、地元事業者や店舗の PR を推進、地域経済との結びつきを強めている。
- ・観光ボランティアガイドの会には、イベント実施時の案内や除草・清掃活動などの協力を得ている。

■事業展開にあたっての問題点や動向等

- ・一部の古墳では、雑草繁茂など管理が不十分な状態となっており、トイレ等の整備も課題となっている。
- ・コロナ禍以前に多かった団体旅行・パッケージツアーは減少傾向。旅行スタイルが多様化し、個人でカスタマイズした旅行が主流になっている。
- ・広域連携は互いのメリットがかみ合わない持続性が難しい。
- ・鉄道事業を持続的に運営していくため、駅舎等の駅設備を利用状況に即した規模へ適正化していくことが必要である。

■纏向遺跡周辺地区まちづくりに対するアイデア

- ・交通の便が悪く行きづらい。十分な駐車場を確保しアクセス道路を整備することが重要。
- ・交流館では、「大和さくらいブランド」認定品などの PR・販売促進を目的とした物産展やセレクトショップの設置ができるとよい。また、現状として、桜井市らしい土産品が少ないため、地域を巻き込みながら、商品開発にも取り組むとよいのではないかと。
- ・施設整備にあたっては、検討初期段階から、将来参画が期待される事業者の意見を十分に汲むことが重要。
- ・どのような層に来てもらいたいのかターゲットを設定した上で、来訪者は非日常を求めているため、施設の来訪者向け部分と地域住民向け部分は分離した方がよい。
- ・観光協会に観光マネジメント機能を持たせて、消費者に対して事業を展開するだけでなく、旅行会社等企業に対して事業を展開することも必要ではないか。また、ボランティアガイドも重要だが、遺跡という特徴を踏まえると、さらに本物を語れるプロガイドやコーディネーターが重要である。
- ・古墳や遺跡に特化したパンフレットをホテル等に置くだけでも、周遊につながる。広報・情報発信にも積極的に取り組むとよい。
- ・纏向遺跡単独ではなく、周辺の観光資源とパッケージにして地域全体のストーリーメイクにより、面での観光を促進することが必要ではないか。
- ・消費拡大や満足度を高めるために体験コンテンツの造成が必要ではないか。
- ・桜井駅前に飲食店や土産物屋が少なく、来訪者の満足度を下げている。纏向遺跡周辺地区だけでなく、市全体としての来訪者の満足度を高める取組が必要。

(5) 史跡を含む歴史遺産等を取り巻く動向

史跡を含む歴史遺産等を核としたまちづくりに取り組む地域では、歴史遺産や核となる施設を活かし、様々な活動や事業を展開している。纏向遺跡周辺地区まちづくりの参考となる事例を収集し、事例から得られた知見を3つの視点から整理した。

視点1 一定の集客力を有している遺跡関連施設の事例

■集客力のある施設整備や集客性のある施設の併設

- 史跡を活かした拠点施設の整備や歴史遺産を活かした公園の整備とあわせ、公園と一体型の商業施設の整備や公園と隣接して道の駅を整備する等、集客力を高める取組がみられる。



百舌鳥古墳群ビジターセンター
出典：堺市ホームページ



唐古・鍵遺跡史跡公園と道の駅レストエ唐古・鍵
出典：レストエ唐古・鍵ホームページ

■魅力的なイベント等の開催

- 地域団体や学生、ボランティア等が一体となり、歴史愛好家をはじめ、子どもから高齢者までが楽しむことができるイベント等を開催し、集客力を高めている。合わせて、歴史資源に関連する周辺地域の情報を発信し、歴史資源の魅力発信の相乗効果を生み出している。



今城塚公園で開催されたイベント「古墳フェスはにコット vol.14」



難波宮跡公園「みんなのにわ」プロジェクトのイベント
出典：はじめてフェスホームページ
ななにわホームページ

■多様な体験型メニューの提供

- 歴史遺産に因み、火おこしや勾玉づくり、古代郡司や女官の衣装、土器づくり等、古代の人々の生活や当時の様子を体験することができる多様なコンテンツが提供されている。



土器や勾玉づくり体験
出典：広報たわらもと、四日市市ホームページ



火おこし体験
出典：久留倍官衙遺跡公園活用ガイドブック

■デジタル技術を生かしたコンテンツの提供

- バーチャルリアリティ技術を用い、史跡を上空から眺めることができるコーナーや当時の大型建造物や祭の風景を再現する体験、アプリケーション上で当時をバーチャル探索ができる等、最新のデジタル技術を活用した様々なコンテンツが提供されている。



上空から史跡を眺めることができる映像体験
出典：堺市ホームページ



縄文時代の遺跡をアプリケーション上で探索できるソフト
出典：西東京市ホームページ

視点2 地域の拠点としても利活用され、多様な活動が展開されている遺跡関連施設の事例

■地域住民が参画した歴史遺産の保存・活用の取組

- 来園者に遺跡の魅力を伝えるガイド、体験イベントや公園の日常管理のサポート等、地域住民が歴史遺産の保存・活用に参画している。



地域住民によるガイド活動
出典：四日市市ホームページ



地域住民による遺跡の草刈り作業
出典：四日市市生涯学習情報まなぼうやホームページ

- 地域住民が NPO 等の団体を立ち上げ、展示施設のコンシェルジュや遺跡の除草作業を請け負ったり、地元の各種団体が連携し、遺跡祭りを開催する等の活動が展開されている。



遺跡保存会による児童への歴史学習の様子
出典：伊勢遺跡史跡公園ホームページ



地元の各種団体が連携して開催した祭
での土器を使った赤米炊き
出典：伊勢遺跡史跡公園ホームページ

- 行政主催の地域住民の活動プロジェクトを経て、市民組織が発足し、複数のグループで活動を行い、地域住民とともに史跡公園を育て続ける取組に関する協定を締結している例もみられる。

◆安満遺跡公園で活動する安満人倶楽部のグループ

- | | |
|-------------|--------------|
| ・歴史グループ | ・あまプレーパークの会 |
| ・自然グループ | ・古代米グループ |
| ・防災グループ | ・ペットグループ |
| ・あまマルシェグループ | ・竪穴住居づくりグループ |

■教育機関と連携した取組

- 地域の小中学校と連携し、地域の歴史学習を教育プログラムに組み込み、勾玉や土器づくり、火おこし体験を行ったり、古代米の田植えや刈り取り、古代米の給食への活用等に取り組んでいる。
- 大学と連携し、大学生が参加する史跡の魅力発信等についてのワークショップを開催し、若い世代の意見を取り入れる取組が行われている。



史跡公園内の田での稲刈りと古代米の給食
出典：鳥取県ホームページ



大学生が参加した史跡活用ワーク
ショップ
出典：滋賀県文化財保護協会ホームページ

■地域の事業者等と連携した取組

- 商工会等、地元の商店と連携し、地元産品を活用した土産物や新たな食メニュー、グッズ等を開発・販売し、史跡や地域を PR し、地域振興につなげている。
- 企業等による史跡関連施設のネーミングライツや、ベンチや樹木の寄付を募る等、史跡の保存・活用のため、様々な形で事業者の支援を受けている。



古代米や地元産の野菜や器を使った
「遺跡カレー」
出典：鳥取県ホームページ



企業や市民からの寄付によってメッ
セージ付ベンチを設置している例
出典：広報たかつき



史跡の名称を冠した
商品開発
出典：堺市ホームページ

視点3 遺跡関連施設の整備を契機に、総合的なまちづくりや地域活性化策を展開している事例

■周辺の都市基盤整備等市街地整備

- ・ 史跡公園へのアクセス性を向上させる案内サインの整備や道路整備等により、快適な市街地環境整備につなげている。



古代人の足跡の遺跡をモチーフにした案内サインやマンホールの蓋



史跡公園整備を合わせた自転車通行帯の整備
出典：高槻フーシンホームページ

■多様な交流人口・関係人口の創出

- ・ ふるさと納税・クラウドファンディングや、遺跡関連のグッズ販売の売上金の一部を歴史資源の保全・活用に販売し、多様な交流人口・関係人口創出の取組が進められている。
- ・ 遺跡の保全・活用活動に地元の外からの人も参加を募り、担い手となる関係人口を生み出している。



売上金の一部が遺跡の保全活用基金になっているピンバッチ
出典：堺市ホームページ



市外の人も活動に参加している安満人倶楽部
出典：安満人倶楽部パンフレット

■地域の活性化につながるイベントの開催

- ・ 飲食・物販・ワークショップ等の出展ブースやステージイベント等、史跡公園を使って地域のにぎわいを創出するイベント等が開催されている。
- ・ 地域の歴史遺産や商店・飲食店等の周遊観光を促進するスタンプラリー（デジタルツールの活用例あり）等を実施し、地域の活性化につなげている。



地元の店舗をはじめ、全国各地から古墳やほにわ等にちなんだブースが並び今城塚古墳公園で開催された古墳フェスはにこっと



史跡を軸に地域資源を巡るスタンプラリーのチラシ
出典：鳥取市、滋賀県文化財保護協会ホームページ

■周辺施設や周辺自治体と連携した取組

- ・ 市町村や県が連携し、歴史的な史跡をPRする協定を締結する等、シンポジウム等のイベント、広域観光の促進等に取り組んでいる。



複数の自治体が連携して古代史跡をPRしていく協定の締結
出典：三重県明和町ホームページ



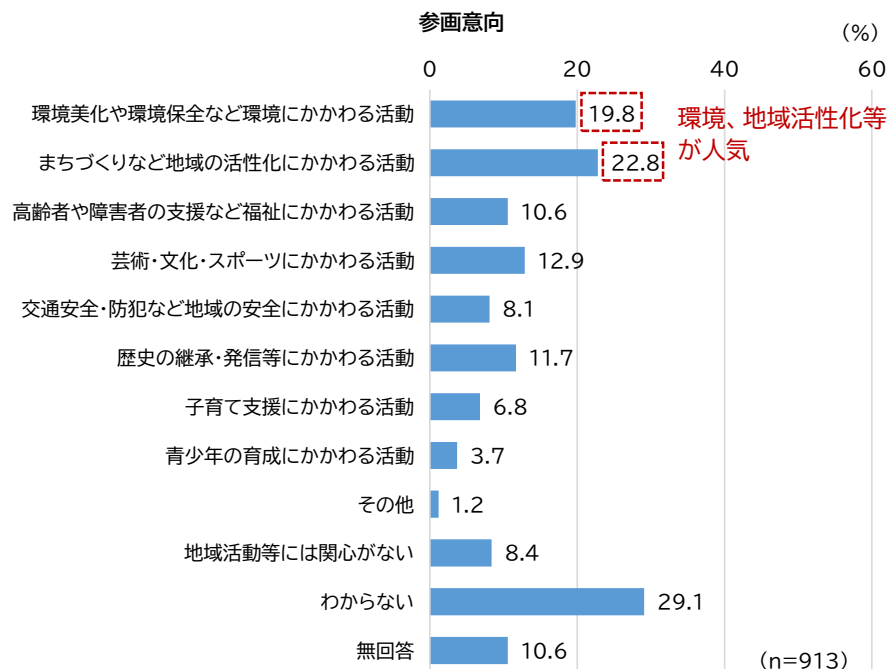
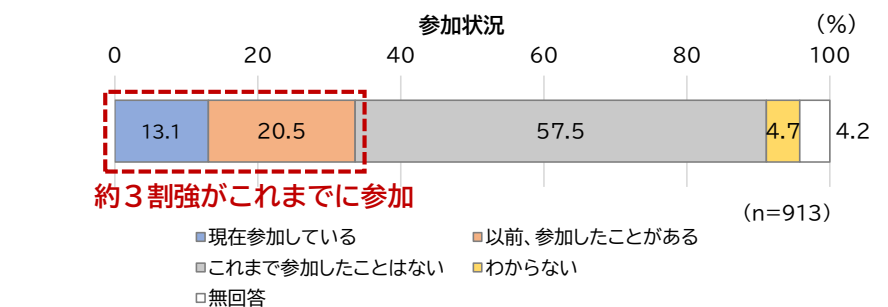
広域の自治体が連携し、弥生時代の遺跡や施設を巡る「御朱印巡り」
出典：鳥取県ホームページ

(6) 市民活動の動き

纏向遺跡周辺地区まちづくりにおいては、住民や市民団体等の協働が想定されることから、住民の市民活動意向を把握するとともに、現在、地元区長や現在活動中の市民団体を対象に、現在の活動状況や今後の取組内容、纏向遺跡周辺まちづくりに対する考え等についてヒアリング調査を実施した。

①住民の市民活動意向等

地域活動やボランティアへの参加経験は半数以上が「ない」と回答しているが、「環境美化」や「地域活性化」などには一定の関心が示されている。



出典：纏向遺跡周辺まちづくり住民アンケート調査

②ヒアリング概要

【ヒアリング対象】

- 纏向遺跡周辺地区区長
- うるわしの桜井をつくる会（地域資源を活かし地域課題解決に向けて活動する団体）
- ひみこの庭（箸墓古墳のそばでカフェ事業等を展開する事業者）
- まきむくマルシェ実行委員会（多様な世代が参加できるマルシェを企画運営する団体）

【主なご意見】

■ 纏向遺跡周辺まちづくり・交流館について

- ・ 買い物ができる場所がない。
- ・ 駅周辺の道路は、曲がり角が狭く危険で、駐車場もない。全体的に道路整備が遅れており事故の危険性も高く、インフラの改善が必要。
- ・ 旧纏向幼稚園、農協跡地等の公有地等を有効に活用してはどうか。
- ・ 飛鳥藤原、山の辺の道、なら歴史芸術文化村等とのつながり、広域的な歴史遺産を一体として保全・活用することで活性化を図りたい。
- ・ 遺跡も重要だが、トレイルと言うキーワードは地区に合うのではないか。
- ・ トイレや駐車場は重要。離れていても良いので十分な駐車場が必要ではないか。
- ・ 纏向遺跡の広場は広いが、ぬかるんでいて利用できる範囲が限定される。草刈がかなり負担。また、出入り口が一か所しかないのも不便。
- ・ カフェや休憩できるスペースはあっても良いのではないか。曾爾村にあるシェアキッチンのような施設があると良い。
- ・ サイクリングの需要があるのではないか。サイクルトレインやサイクリングロードと連動して活性化を図ってはどうか。

■ 今後の活動内容について

- ・ 区長や他団体等まちづくりキーパーソンや市観光協会との連携が重要だと認識している。
- ・ 今後は、修学旅行や遠足で立ち寄ってもらい教育にかかわる事業ができると良い。

3 纏向遺跡周辺地区の現状と課題

「まちに住む人」「まちにかかわる人」「まちを訪れる人」の各視点から、地区の現状と課題を整理した。また、現状と課題を踏まえ、纏向遺跡周辺地区まちづくりにおいて求められることを整理した。

	まちに住む人	まちにかかわる人	まちを訪れる人
現状と課題 (次頁以降参照)	○自然や歴史遺産は地域住民にとって大切な地域資源となっている ○地域活力が低下する恐れがある ○日常を支える生活インフラに問題を抱えている ○未利用の建物や老朽化した建物が点在している ○まちづくりに対して期待と不安がある ○地域に対する愛着が行動につながっていない	○地域に対する愛着が行動につながっていない(再掲) ○多様な団体が活動をしているが、それぞれの団体や行政との連携が十分でない ○周辺自治体や企業との広域観光に関する施策や事業が展開されている ○コアな歴史・考古学ファンが纏向遺跡に高い興味関心を持っている ○観光協会の機能強化やガイドの拡充が期待されている	○豊富な観光資源が十分に活用できていない ○纏向遺跡は重要な歴史遺産であり、観光の核となる可能性を秘めている ○市内外に豊富な観光資源が存在するが、観光資源の連携が不足している ○体験型や学べる活動プログラムのニーズ、カフェ等の飲食機能が求められる
求められること	 ○地域コミュニティの活性化 ○利便性・安全性の高い交通ネットワークの形成 ○商業環境の充実 ○建物(跡地)の管理、更新・利活用 ○まちづくりに対する理解の向上 ○暮らしと観光が共存したまちづくりの推進 ○潜在的なシビックプライドの行動化	 ○地域活動への参加の促進 ○各主体(市民団体、地域事業者、企業、行政等)の特性を活かした多様な連携の促進 ○ファンの興味関心を活かした取組の促進 ○観光協会の機能強化やガイドの育成・支援	 ○滞在型観光の促進 ○周遊・広域観光の推進 ○纏向遺跡を活用した観光振興 ○ニーズを踏まえた施設整備や取組の促進

まちに住む人

○自然や歴史遺産は地域住民にとって大切な地域資源となっている

纏向遺跡周辺地区では、近くに初瀬川や纏向川が流れ、三輪山・穴師山に接した、豊かな自然環境を有しており、纏向遺跡をはじめ数多くの歴史遺産が点在している。

本市の上位計画においても、纏向遺跡周辺を含む JR 巻向駅周辺は、これらの自然・歴史資産等の地域特性を活かしたまちづくりの推進が掲げられている。

こうした豊かな自然・歴史遺産は、多くの地域住民にとって地域のよいところとして評価されており、地域に対する愛着をはぐくむ大切な地域資源となっている。

○地域活力が低下する恐れがある

纏向遺跡周辺地区の人口は、本市全体の傾向と同様に、年々減少しており、高齢化率は 40%程度と桜井市平均と比べても高い水準となっている。また、単身世帯や夫婦のみの高齢者世帯が増加している。

人口減少・高齢化の進行や単身世帯の増加は、地域活動の担い手不足や参加の機会の減少等を招き、地域活力の低下が懸念される。

こうした状況を踏まえ、本市の上位計画においても、JR 巻向駅周辺においては、既存の地域コミュニティ機能の維持・強化に努めることとされている。

○日常を支える生活インフラに問題を抱えている

纏向遺跡周辺地区の道路は、歩行者と車両が共存して通行するには狭く、急な曲がり角も点在しており、安全な通行・歩行が難しい状況が見受けられる。また、自家用車の送迎等を考えると、駅付近に駐車場や待機スペースの確保が望まれる。

バス路線は便数が各方面 1 時間に 1 本程度となっており、JR 巻向駅と最寄りのバス停が離れており、利便性が低い。

また、生活便利施設はコンビニが 1 か所、診療所が 2 か所のみとなっている。

こうした状況に対して、「公共交通の充実」や「商業環境の改善」を求める声が多くなっている。

○未利用の建物や老朽化した建物が点在している

JR 巻向駅付近には、未利用の建物や老朽化した建物が点在しており、まちなみの景観の悪化や安全性の低下などの影響が生じている。

纏向遺跡近くの旧纏向幼稚園は閉園後、纏向学研究センターの倉庫として一部利用されているが、老朽化が著しい。また、県営纏向団地は、昭和 46～48 年にかけて建設され、築 50 年以上が経過しており、奈良県が今後のあり方について検討している。

○まちづくりに対して期待と不安がある

まちづくりの推進にあたっては、遺跡の保存・活用や遺跡の景観保全のほか、地域の活性化に対して期待が寄せられている。また、住民等の活動場所ができた場合の利用意向は 6 割程度と比較的高く、施設整備に対しても期待されていることがうかがえる。

一方で、まちづくりの推進に伴う懸念点として、居住環境の悪化、道路渋滞の発生、まちなみや景観の悪化が挙げられている。

○地域に対する愛着が行動につながっていない

纏向遺跡周辺地区には、豊かな自然環境や多様な歴史遺産等を有しており、これらの地域資源を大切にすべきと思う一方で、身近なもの・興味関心の対象となっていない。

また、地域活動やボランティアのテーマとして「環境美化」や「地域活性化」などには一定の関心が示されているが、これまでの参加経験は半数以上が「ない」と回答している。

まちにかかわる人

○地域に対する愛着が行動につながっていない（再掲）

纏向遺跡周辺地区には、豊かな自然環境や多様な歴史遺産等を有しており、これらの地域資源を大切にすべきと思う一方で、身近なもの・興味関心の対象となっていない。

また、地域活動やボランティアのテーマとして「環境美化」や「地域活性化」などには一定の関心が示されているが、これまでの参加経験は半数以上が「ない」と回答している。

○多様な団体が活動をしているが、それぞれの団体や行政との連携が十分でない

纏向遺跡周辺地区では、歴史や文化、景観、環境の保全、地域の活性化に取り組む団体や、地域資源を活かしカフェ事業を展開する事業者等、さまざまな市民団体や地域事業者が活動している。各団体で多様な活動や事業展開がみられ、一部親和性の高い活動・団体もみられるが、現状では相互に連動していない。

また、各団体の事業展望の実現に向けては、行政や多様な主体との連携が必要であるが、現状では十分に連携できていない。

○周辺自治体や企業との広域観光に関する施策や事業が展開されている

本市では、豊かな自然環境や多様な歴史遺産等を活かし、周辺自治体と連携して広域観光を促進している。また、鉄道事業者や旅行会社においても、広域観光に資する事業が展開されており、公民それぞれの領域において、本市に留まらない観光施策や事業が多数展開されている。

一方で、広域観光の促進にあたっては、関係者間の相互メリットの創出、施策や事業の継続性において問題を指摘する声もある。

○コアな歴史・考古学ファンが纏向遺跡に高い興味関心を持っている

纏向遺跡は、古墳時代を語る日本史上重要な遺跡として、学術的価値の高さから、専門家だけでなく、歴史・考古学ファンから高い関心を集めている。こうしたファン層の活動は、実際に現地に足を運ぶだけでなく、遠方地での展示や講演会への参加に加え、ふるさと納税やファンド等を通じた寄付等の可能性を秘めている。

○観光協会の機能強化やガイドの拡充が期待されている

観光振興の要となる観光協会では、観光ボランティアガイドの会等との協働により、活動を展開しているが、イベント企画運営等が中心となり、戦略的に観光事業を展開するに至っていない。

一方で、旅行会社や鉄道会社等の企業からは、観光協会に対する観光マネジメント機能や事業の拡大を期待している声も聞かれた。

また、観光ボランティアガイドは、観光振興の重要な役割を担っているものの、現状として、人数が不足しており、コアなファンのニーズに対応すべく、専門性の高いボランティアガイドの養成が期待されている。

まちを訪れる人

○豊富な観光資源が十分に活用できていない

本市は、豊かな自然環境や数多くの歴史遺産に恵まれ、これらを目当てに多くの観光客やハイカーが来訪しており、新型コロナウイルス感染症拡大前は年間 700 万人の観光客が来訪していた。しかしながら、観光客の多くが大神神社への参拝客であることや日帰り利用となっていること等から、経済効果が限定されている。

○纏向遺跡は重要な歴史遺産であり、観光の核となる可能性を秘めている

纏向遺跡は、史跡に指定され、多くの歴史・考古学ファンに注目されている存在であり、他の観光資源に比べると認知度は比較的高いが、十分に認知されているとは言い難い。

一方で、来訪・体験意向は比較的高く評価されており、観光の核となる可能性を秘めているといえる。ただし、現状として纏向遺跡付近の道路は、幅員が狭く自動車が通行しづらい。また、JR 巻向駅から纏向遺跡辻地区建物群等へのアクセスがしづらく、案内板がない等、来訪者を受け入れる環境が整っていない。

○市内外に豊富な観光資源が存在するが、観光資源の連携が不足している

本市では、市内の各所に豊富な観光資源を有しており、モデルコースの設定やエリア別情報の充実等を通じて、周遊観光の促進に取り組んでいる。また、周辺自治体と連携して広域観光の促進にも取り組んでいるが、周遊・広域観光を促進するうえで重要となる広域動線は、交通量が多く、平日の混雑度が高い状況にある。また、広範囲で利用できるレンタサイクル、休憩等で利用できるトイレや駐車場、統一された看板や案内板等、周遊・広域観光を促進する取組が不足している。

○体験型や学べる活動プログラムのニーズ、カフェ等の飲食機能が求められる

纏向遺跡への集客機能としては、住民・来訪者の両者より、体験型や学べる活動のニーズが高い。

また、来訪者からは、カフェ等の飲食機能も高く求められている。

4 纏向遺跡周辺地区のまちの将来像と基本目標

纏向遺跡周辺地区には、自然環境や歴史遺産等の地域資源に恵まれる一方で、人口減少が進行し、地域活力の低下が懸念されており、これら地域資源を活用した地域振興・観光振興を通じて、地域住民の郷土への誇りと愛着を醸成しつつ、交流人口や関係人口の拡大を図ることが重要と考えられる。

また、来訪者にとって利便性の高い環境を整えるとともに、地域内の回遊性向上や経済的な循環を促進することで、地域住民の生活利便性が向上し、地域の新たな活力の創出につながると期待される。

そこで、本市は、纏向遺跡等の歴史的価値を将来に継承し、多様な主体の関わりのもと、地域の新たな活力の創出につなげるまちづくりを推進するため、以下のように「まちの将来像」と「基本目標」を設定する。

【まちの将来像】

歴史と自然にはぐくまれ、
多様な主体と地域の資源が調和し、つながる持続可能なまち

まちに
住む人
の視点

基本目標 1

誇りを持ち、
安心して暮らし続けられる
まちづくり

まちに
かかわる人
の視点

基本目標 2

協働により
新しい魅力を生み出す
まちづくり

まちを
訪れる人
の視点

基本目標 3

訪れるたびに新しい発見と
心地よさを感じる
まちづくり

基本目標1 誇りを持ち、安心して暮らし続けられるまちづくり

纏向遺跡周辺地区には、豊かな自然環境や数多くの歴史遺産が点在しており、多くの地域住民にとって大切な地域資源となっている。

一方で、人口減少・高齢化の進行や単身世帯の増加により、地域活力の低下が懸念されるほか、日常を支える生活インフラ、未利用の建物や老朽化した建物の問題等が顕在化している。

そのため、これらの問題に対応するとともに、新たに整備される史跡纏向遺跡交流館（仮称）を有効に活用することで、文化財の保全・活用や地域コミュニティの形成に取り組み、より一層、住民が誇りを持ち、安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていく。

基本目標2 協働により新しい魅力を生み出すまちづくり

多くの地域住民が、地域に愛着を持っているものの、地域に対する愛着が行動につながっていない。また、様々な市民団体等の活動が見られるが、それぞれの団体や行政との連携が十分でない現状がある。

一方で、纏向遺跡はその歴史的価値から、全国には纏向遺跡の保全・活用を応援する多くのファンが存在しており、本市の交流人口や関係人口の増大につながる可能性がある。

そのため、市民団体や事業者等の地域に直接的に関与する主体の活動について行政の部局横断的な支援のもと拡充や連携を促進するとともに、来訪者やファン等の地域に間接的に関与する主体にも訴求する活動に取り組むことで、多様な主体の協働により新たな魅力を生み出すまちづくりを進めていく。

基本目標3 訪れるたびに新しい発見と心地よさを感じるまちづくり

纏向遺跡は、今後、観光の核となる可能性があるものの、現状として、アクセスや案内環境が不十分で、来訪者を受け入れる環境が十分とはいえない状況にある。また、本市を含めて周辺自治体には、多くの観光資源があるものの、十分に活用できておらず、連携も不足している。

そのため、纏向遺跡を文化財として保存しつつ、観光資源として磨き上げるとともに、本市や周辺自治体がある豊富な観光資源と一体となって、ここでしかできない体験や利便性・快適性の高い観光環境等を提供することで、来訪者が訪れるたびに新しい発見と心地よさを感じるまちづくりを進めていく。

纏向遺跡周辺地区まちづくりに取り組むことで期待される効果

纏向遺跡周辺地区まちづくりに取り組むことで、以下のような経済効果・社会的効果が期待される。

直接経済効果

- ・ 来訪者の増加に伴う宿泊、飲食、交通、体験等地域内消費額の増大
- ・ ホテルや旅館、飲食店等関連施設の整備・運営 等

間接経済効果

- ・ 農産物、工芸品等観光関連産業の生産額の増大、サービスの成長
- ・ 公共交通・都市インフラの維持・拡大
- ・ 消費税・固定資産税・法人税等の増収
- ・ 雇用機会の拡大 等



社会的効果

- ・ 市民の生活の質の向上
- ・ 地域コミュニティの形成・活性化
- ・ 地域への愛着心や地域ブランド力の向上
- ・ 文化・歴史の継承 等

5 縄向遺跡周辺地区まちづくりで行う取組

基本目標1 誇りを持ち、安心して暮らし続けられるまちづくり

●史跡縄向遺跡交流館（仮称）の整備

地域の交流拠点としての機能を有する史跡縄向遺跡交流館（仮称）の整備を推進する。

整備にあたっては、交流館に加えて、多様な活動の場としての利用が期待される広場の充実を図るとともに、史跡公園の整備について検討する。

また、学びと観光が共存したまちづくりに向けて、住民の理解の向上を図るとともに、住民のニーズを施設の計画や管理運営に反映するため、定期的な情報の発信や設計・整備・管理運営の各段階における住民参加の促進に取り組む。

〈参考〉史跡広場を活用した地域交流イベントの開催（青谷かみじち史跡公園）



- ・ 史跡公園の「にぎわい交流ひろば」を中心に地域交流イベントを開催
- ・ 地元青谷の方を中心に飲食・物販コーナー、地元の郷土芸能や児童・生徒らの演劇等のステージイベント等、合せて70を超える団体が参加

（出典：鳥取県ホームページ）

●安全・快適に通行できる道路ネットワークの整備

歩行者、自動車利用、自転車利用の誰もが、快適で安全・安心して通行できる道路ネットワークを整備する。

特に、小学校、北ふれあいセンター、史跡縄向遺跡交流館（仮称）等の主な公共施設へのアクセス動線については、歩行者空間を確保するとともに、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮する。

●駅周辺の拠点機能の強化

JR 巻向駅を中心として、鉄道、バス、自転車、自動車等の多様な交通手段が有機的に機能し相互に補完できるように、駅周辺の利便性の向上を図り、交通結節機能や地域拠点機能を強化する。

〈参考〉駅舎改修に合わせた地域拠点の形成（JR 山陰線阿川駅）



- ・ 老朽化した旧駅舎を解体・撤去した更地に、鉄道事業者が駅舎を、民間事業者がカフェと客席のあずまやを整備
- ・ 駅を目当てに市外からの来訪もある人気スポットとなり、近隣・周辺の住民の集う場としても機能

（出典：山口県観光サイト）

●低未利用地や空家の有効活用

駅周辺に点在する低未利用地や空家は、所有者に対して適切な管理や更新・利活用を促すとともに、未利用の公有地については、活用方策について検討を進める。

〈参考〉多様な手法を組み合わせた空家対策（新潟県三条市）



- ・ 市内の空家を利活用し、地域交流拠点や宿泊施設、学生の居場所等を創出し、商店街やエリア全体の活性化を促進
- ・ 空家の定期的な窓開け・換気、草刈り・雪かき等を代行する空き家の見守りサービスも展開

（出典：一般社団法人燕三条空き家活用プロジェクトホームページ）

●地域ぐるみで取り組む地域学習の促進

子どもだけでなく多様な世代の住民が生涯に渡り、地域の自然や歴史に触れ、学ぶ機会を創出する。

また、地域イベントやワークショップを定期的に行うことで、市民活動の拠点として地域コミュニティの形成を促進する。

〈参考〉田植えを通じた地域学習（青谷かみじち史跡公園）



- ・ 地元の小学生と高校生が古代米の田植えや稲刈り・天日干しを体験
- ・ 体験を通じて、遺跡や古代の食文化に関心を高めるとともに、多世代交流を促進
- ・ 収穫した古代米は、学校給食等に活用

（出典：鳥取県ホームページ）

基本目標2 協働により新しい魅力を生み出すまちづくり

●史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備 再掲

地域の交流にとどまらず、さらに発展して市民協働の拠点としても機能する史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備を推進する。

既存団体の活動場所の利用に加えて、新たな団体や活動が創造されるよう、既存団体や施設管理者、行政が連携を図りながら、場所や機会を提供するとともに、市民や団体と一緒に施設管理やまちづくりを推進する仕組みをつくる。

〈参考〉ボランティアとの協働による公園の管理運営（国営飛鳥歴史公園）



- ・ ボランティアクラブに入会后、1年をかけて、飛鳥の豊かな里山の自然や歴史文化について学習
- ・ 講習終了後は、ボランティアとして、公園ガイドやものづくり、園芸等を通じて、公園の管理運営に関与

（出典：国営飛鳥歴史公園ホームページ）

●既存団体の活動の周知・連携の促進

既存団体のイベントや催しについて、自治体の広報誌やウェブサイト、SNS等を活用して定期的に情報発信を行う。また、各団体が連携して、それぞれのイベント等で各団体の紹介ブースを設けたり、共同でイベントを開催する等して、住民との接点を増やし、活動内容への理解と参加促進を図る。

●エリアマネジメントの推進

住民、市民団体、地域事業者のほか、地域にゆかりのある企業や周辺の教育機関等の多様な主体が連携し、情報交換や連携を進める。さらには、それぞれの活動を活かしつつ相互連携を図り、エリア価値の向上に向けて、多様な活動を展開する。

〈参考〉産官学の参画により観光まちづくりの推進（新今宮駅周辺）



- ・新今宮駅周辺を、集客エリアとして販売の創出を図るため、民間・住民・行政が協働で観光まちづくりを推進
- ・協議会には、鉄道事業者、ホテル事業者、大学等が会員、商工会議所がオブザーバーとして参加、行政や自治会等と連携

（出典：新今宮駅周辺観光まちづくり推進協議会ホームページ）

●飲食・物販店等商業施設の出店支援

古民家などの利用も視野に入れながら、「空き家ワンストップ相談窓口」や「桜井市空き家バンク」の活用や地域との連携による空き店舗・空き家の情報提供、創業・出店相談等を通じて出店のハードルを下げるとともに、地元産品の活用やイベント出店機会の創出により販路拡大を後押しする。

●多様な接点によるファンとの交流の促進

実際に現地に訪れる人だけでなく、纏向遺跡や桜井市に興味関心を持っている人、応援したい人、愛着を持っている人等の“纏向ファン”とも、多様な接点を設け、情報発信や交流促進を図るとともに、その興味関心の思いをまちづくりや施設運営に活かす取組を行う。

〈参考〉寄付プロジェクトによるベンチの設置（安満遺跡公園）



- ・市民や企業の寄付により、公園に新しいベンチを設置する「あまこいベンチ」やヤマザクラ等を植樹する「樹木の寄付プロジェクト」を実施
- ・寄付を通じて、公園との接点づくりや愛着醸成を促進

（出典：PARKFUL ホームページ）

●観光推進体制の強化

観光協会と連携して、戦略的に観光施策を展開するための体制を構築するとともに、周辺自治体や企業との連携を強化する。

また、観光ボランティアガイドは、より専門的なガイドや観光の提案を行うコーディネーターとして活躍できるよう、学術的・体系的な研修機会の機会を設け、育成・支援する。

基本目標3

訪れるたびに新しい発見と心地よさを感じるまちづくり

●史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備 **再掲**

桜井市纏向学研究センターが中心となって、纏向遺跡の調査・研究を行い、その歴史的価値を継続的に広く発信していくとともに、学びや観光のための施設として史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備を推進する。

整備にあたっては、ニーズを踏まえた体験型や学べる活動プログラム等を導入するとともに、管理運営段階の使われ方や管理運営のしやすさ等を十分に配慮し、民間活力を活用した整備・管理運営手法の導入について検討する。

〈参考〉指定管理者による管理運営（唐古・鍵遺跡史跡公園）



- ・ 指定管理者制度を導入し、民間事業者の施設運営に関するノウハウを活かした管理運営を実施
- ・ 公園内の各施設や植栽の維持管理のほか、多様なイベントを企画運営し、広報や集客活動を実施

（出典：唐古・鍵遺跡史跡公園ホームページ・Instagram）

●市内広域ネットワークの強化

纏向遺跡を中心とし、関連する史跡や市内の主な拠点をつなぐモデルコースを整備し、回遊性を高める。また、本市の核となる観光資源を有する「三輪」や「初瀬」等のエリアと一体となって、観光環境の整備や周遊イベントの企画運営等を行い、市内広域ネットワークを強化する。

●周辺自治体との広域ネットワークの強化

「飛鳥・藤原の宮都」、「山の辺の道」、「ヤマト王権発祥の地」等のキーワードのもと周辺自治体の観光資源・施策とも積極的に連携し、周遊イベントの企画運営、レンタサイクル、周遊バスや観光タクシー等の広域観光を支える移動手段の拡充に取り組む。また、駐車場や公衆トイレの設置について検討する。

〈参考〉多自治体による周遊バス事業の展開（但馬地域）



- ・ 観光施設が点在する但馬地域において、公共交通による観光周遊の利便性を向上させるため、県と市町、観光協会が連携し周遊バスを運行
- ・ 但馬地域を満喫できる多数のコースを季節に合わせて運行

（出典：たじま旅ネットホームページ）

●看板・案内標識の整備

主な拠点やモデルコースに看板や案内標識の整備を促進する。整備にあたっては、現地に設置するものに加え、アプリやVR等デジタル技術の拡充に取り組む。

〈参考〉歴史観光アプリ導入による周遊の促進（鳴門市）



- ・ ユーザーは、登録されたスポットの音声ガイドを無料で聞くことが可能
- ・ アプリを利用することで、観光客に対する歴史的背景やストーリーへの理解を促し、地域の魅力を発信するとともに、エリア内の回遊性向上にも寄与

（出典：鳴門市ホームページ）

●観光プログラムの開発

来訪者の滞在時間を増やすとともに満足度を高める宿泊機能や体験プログラムを拡充する。

〈参考〉地域の人材を活用したおもてなし（八百熊川）



- ・ 熊川宿内の古民家を活かして分散型宿泊施設を整備
- ・ 宿の夕食は、地域のお母さんたちが腕をふるい、熊川に受け継がれる家庭の味を提供し、宿泊や食事を通じて、地域の暮らしを体験

（出典：八百熊川ホームページ）

●エリアプロモーションの推進

纏向遺跡を中心として、市内外の神社仏閣、自然、祭事等の多様な観光資源を活かし、テーマ別やターゲット別に有機的に連携を図りながら、エリアプロモーションを展開する。

〈参考〉地域特性を活かしたエリアプロモーションの展開（京都府）



- ・ 地域特性を踏まえて、京都府内の各地域を「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」「竹の里・乙訓」と設定し、観光を入口とした地域経済の活性化や世界有数の観光ブランドとして確立を目指す

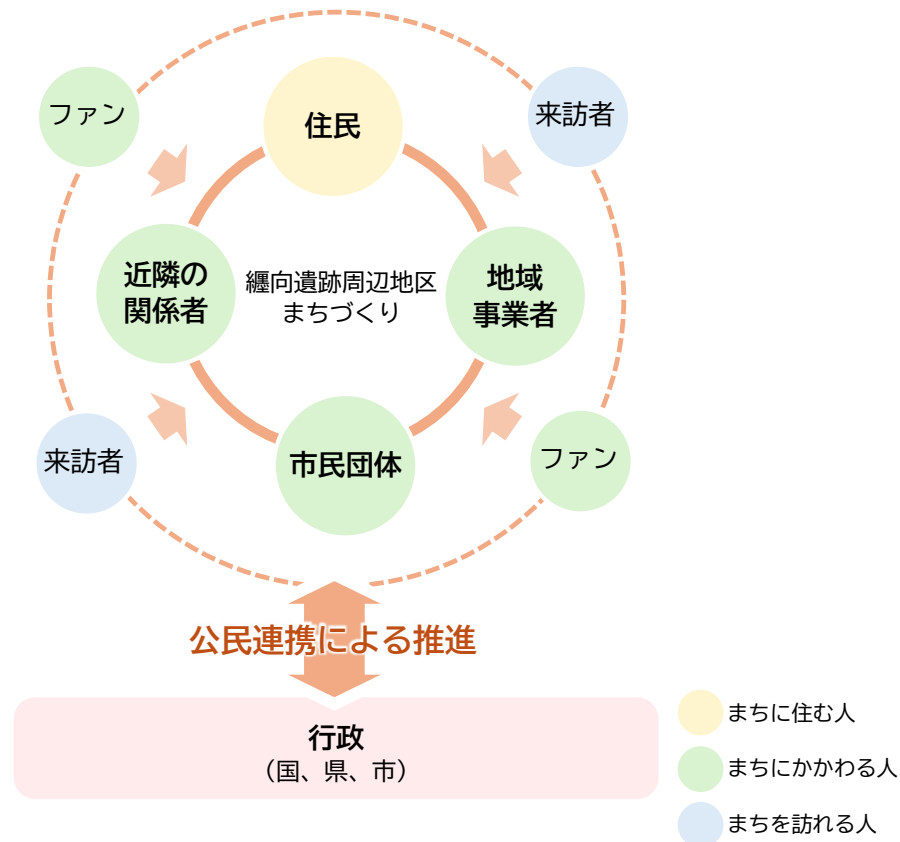
（出典：公益社団法人京都市観光協会ホームページ）

7 実現に向けた取組

(1) 多様な主体の連携によるまちづくりの推進

まちの将来像の実現に向けては、行政だけで取り組むには限界があり、住民、市民団体、地域事業者、近隣の関係者等との連携・協働が重要であることから、それぞれが役割を担い、公民連携によりまちづくりを推進することが求められる。

また、地域内の直接的に関与する主体に加えて、来訪者やファン等の間接的な関与の主体を巻き込みながら、より一層まちづくりを推進する。



(2) 今後のスケジュール

まちづくりで行う取組の実施に向けたスケジュールは以下のとおりである。

目標	まちづくりで行う取組	スケジュール		
		短期	中期	長期
基本目標1	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 安全・快適に通行できる道路ネットワークの整備	←→		→
	● 駅周辺の拠点機能の強化	←→		→
	● 低未利用地や空家の有効活用	←→		→
	● 地域ぐるみで取り組む地域学習の促進	←→		
基本目標2	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 既存団体の活動の周知・連携の促進	←→		
	● エリアマネジメントの推進	←→		→
	● 飲食・物販店等商業施設の出店支援		←→	→
	● 多様な接点によるファンとの交流の促進	←→	→	
	● 観光推進体制の強化	←→		
基本目標3	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 市内広域ネットワークの強化	←→	→	
	● 周辺自治体との広域ネットワークの強化		←→	→
	● 看板・案内標識の整備	←→	→	
	● 観光プログラムの開発	←→		
	● エリアプロモーションの推進	←→		→

